

日 退 教 事務局だより

21-5(FAX 2 枚)

日本退職教職員協議会

発行責任者 平岡良久

2021 年 11 月 2 日

「第 27 回 五者合同学習会」

2021 年の秋を迎え、新型コロナウイルス感染にもようやく落ち着きを見せてきました。8 月 20 日には全国で新規感染者が 2 万 5 千人を超えていましたが、「五者合同学習会」が開催された 10 月 7 日には 912 人まで減少しました。

参加形式を多様化して五の者合同学習会でした。日退教参加者は会場参加 31 名、現職・退女教を含めて ZOOM での参加者 81 名、同じく YouTube 参加者 48 名でした。

以下、五者学習会の報告です。

第 27 回 五者合同学習会報告

昨年は開催できなかった学習会だが、今年は 10 月 7 日(木)「一安心して豊かに暮らせる社会をめざして」をテーマに、日本教育会館 806 会議室でリモートを併用して開催された。開会挨拶は教職員相互共済会の岩間克彦さん、2020 年代半ばに解散が決まっているがこれまで以上の協力を求められた。続いて主催者代表挨拶は教職員共済生協理事長の岡島真砂樹さんが困窮・貧困・DV・ネット上の誹謗中傷など問題が山積するなか、女性・子ども・障害者・外国人・難民など弱い立場の人に寄り添いながら差別を許さない運動を進めようと訴えた。また、東日本大震災を風化させない取り組み、自然災害の巨大化、頻繁化する状況にあって相互扶助＝助け合いが重要であり、それが平和・人権推進運動に繋がれば幸いであると述べられた。

次に、来年の参議院議員選挙に日政連議員として立候補予定の古賀ちかげさんが挨拶された。福岡出身で子どもと関わってこられた古賀さんは、急遽進められたオンライン授業について教育現場の混乱と子ども同士をどうつなぐかという課題を示され、また、平和教育を実践されてきた経験から二度と戦争がないように、がんばりたいと決意表明された。

日教組からは中央執行委員・事務職員部長の南部猛さんが「厚生年金保険法の改正について」報告された。主な改正点は、1、短時間労働者・非常勤職員の被用者保険(厚生年金・健康保険)の適用拡大、2、在職中の年金受給のあり方の見直し…65 歳未満の在職中の支給停止の基準額を 65 歳以上と同様に 47 万円とする 3、受給開始時期の選択肢の拡大…60 歳から 75 歳の間に拡大、などである。



石橋 学氏 神奈川新聞
川崎総局編集委員

学習会のメインは「ヘイトスピーチ根絶への次の一步を」という演題の、神奈川新聞川崎総局編集委員の石橋学さんによる講演であった。石橋さんは2013年からヘイトスピーチの取材を続けてこられ、私たちが手に入れるべき差別の無い社会をどう作るかについて、豊富な資料を提示しながら話された。最初に「憎悪のピラミッド」という図(下からの先入観による行為→偏見による行為(ヘイトスピーチ)→差別行為→暴力行為→ジェノサイド)を示され、歴史的に見てもナチスによるユダヤ人虐殺や関東大震災時の朝鮮人虐殺などを例に挙げ、下の段階で規制されなければならないと述べられた。

過去の歴史の反省から1965年人種差別撤廃条約が作られたが、日本が締結したのは村山政権下の1995年だった。しかし、日本は法律で規制するほど深刻な差別は無い。第4条の(a)(b)人種差別行為や扇動を「法律で処罰すべき犯罪」とすることを留保している。これにより表現の自由を侵す危険がある。石橋さんは、差別禁止法が無いなかで、いかにひどいヘイトスピーチ(ヘイトデモ)が行われているかを動画で紹介された。2016年になりようやくヘイトスピーチ解消法が施行されたが、これは差別をなくすための施策は自治体任せという不十分なものであり、実効性は薄いものであった。これを補うものとして、2019年、日本で初めて川崎市で差別を犯罪と位置づけ、刑事罰を科す条例が成立した。

その後もヘイトスピーチ・デモは繰り返されるが、石橋さんは、川崎市桜本の多文化共生の取り組みの紹介やヘイトデモ許可に対して体を張って差別を阻止する人々の様子等も記事にした。そして、川崎市ではヘイトスピーチを繰り返している男性の集会とデモの集合場所として申請している公園の利用を不許可とする判断を下した。

一方、多文化共生施設「川崎市ふれあい館」の館長崔江以子さんへの誹謗中傷はエスカレートし、刑事罰が適用されたこともあるが、殺害をほのめかす脅迫状が届けられ、ヘイトクライムが起きるようになった。在日コリアンが防刃チョッキを着なければ外を歩けない状況さえ生まれている。アメリカでもトランプが大統領になって以降ヘイトクライムが増え、レイシストの集会に抗議した人がひき殺されるという事件まで起きた。その方は「憤りを覚えないのはあなたに関心を持っていないからです」という言葉を残したが、今ある差別に目をこらし、NOの声を上げることが求められている。最後に石橋さんは差別を禁止する法律が無い状況では川崎市のような条例を広げ、それを社会の規範としレイシストが町中で差別をする状況、居場所を奪うことが、差別をなくしていくことにつながるとまとめられた。

最後に日退教会長の竹田邦明さんによるまとめ・行動提起・閉会挨拶があった。「年金問題では、高齢者の年金を減らして現職に持って行くという議論の立て方ではなくて、人が生きていく間に、どういうふうにお互いの生活を成り立たせていくかと、対立を避ける方向で考えなければならない。また、ヘイトの問題はつい今でも起こっている現実で、私たちは、20世紀は戦争の世紀だったから21世紀は人権と環境の世紀と言ってきたが、全く進んでいない。石橋さんからは教育の大切さの話もあったが、ジャーナリストとして戦っている姿も見せてもらって感銘を受けた。来年は大きな部屋で、対面で時間をとって、学習会をやることができれば」と締めくくられた。